

PRSJ NEWS

2023年7月号 No.353



4年ぶりで盛り上がった夏季情報交歓会(7月12日、表参道・Un Café)

TOPICS

MESSAGE

広報の魅力は人脈づくり

PRSJ 理事・関西部会長 細見 基志

P3

7月入会の皆様のご紹介

P4

BULLETIN

【国際セミナー】ウクライナ戦争で加速するパラダイムシフト (日本国際放送 高尾潤氏)

P12

【They Talk Forum】誰も歩いたことのない道を (日本テレビ 谷生俊美氏)

P15



公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会

発行人：理事長 牧口 征弘

目 次

7月~8月スケジュール		P1
MESSAGE(メッセージ)	広報の魅力は人脈づくり	P3
新入会員紹介ページ	7月入会の皆様のご紹介	P4
ATTENTION(お知らせ)	第34回1次試験の申込み7月28日まで	P5
	「PRプランナー1次試験対策講座」を一部改訂	P6
〃	「PRケーススタディ<第1回>」をオンデマンド開講	P7
〃	「パブリックリレーションズ中堅実務者講座」対面講座として開講	P8
〃	今年も「新任広報部長講座2023」を対面開講	P9
〃	「PR集中テーマスタディ(第1回)」を7月開講	P10
BULLETIN(活動報告)	パブリックリレーションズ実務を学ぶ2講座を対面開講	P11
	2023年度 第1回 国際セミナー開催報告	P12
	6月16日 They Talk Forum 開催報告	P15
	第28回広報活動研究会(6月5日)開催報告(会員限定)	P19
	第43回広報ゼミ(6月9日)開催報告(会員限定)	P18
REPORT (レポート)	第225回定例研究会開催レポート(正会員・個人会員限定)	P19
PRSJ in MEDIA	掲載情報	P20
事務局だより		P21

7～8月 セミナー・イベント スケジュール

【オンライン】

パブリックリレーションズ入門 Web 講座 2023
 日 時 : 通年開講
 講 師 : 東京都市大学 都市生活学部/大学院環境情報学研究所
 准教授 北見幸一氏他、全9名

【会場開催】

パブリックリレーションズ中堅実務者講座
 日 時 : 7月21日(金) 19:00～21:00
 テーマ : 「広報」の存在価値を高めるには？
 講 師 : 森ビル(株) 特任執行役員 広報室長/サステナビリティ委員会 事務局長
 野村秀樹氏
 会 場 : 六本木アカデミーヒルズ「カンファレンスルーム6」

【会場開催】

新任広報部長講座 2023
 日 時 : 7月26日(水) 15:00～20:00
 テーマ : 新任広報部長講座～お悩み解決の交流サロン2023～
 講 師 : (株)コーセー 執行役員 経営企画部長 原谷美典氏
 朝日新聞東京本社 経済部長 西山公隆氏
 西村あさひ法律事務所 弁護士 鈴木 悠介氏
 会 場 : ミーティングスペース AP新橋

【会場開催】関西部会主催

広報基礎講座～危機管理広報対応
 日 時 : 7月27日(木) 13時～17時50分(受付12時30分)
 テーマ : 危機管理広報対応の実務～謝罪会見を体験してみる！
 講 師 : 龍谷大学社会学部教授/(一社)日本広報支援機構特別顧問
 岸本文利氏
 龍谷大学非常勤講師 南川二郎氏
 会 場 : 中央電気倶楽部 215号室

【会場開催】・【オンデマンド視聴】

第 226 回定例研究会
 日 時 : 会場セミナー：7月28日(金) 14:00～15:20
 オンデマンド視聴：8月8日(火)～9月4日(月) <予定>
 テーマ : 『日経クロストrend』の編集と最新trendの読み方 ～コロナ5類移行、最新マ
 ーケティング事例から今後のtrendを探る～
 講 師 : 日経BP 『日経クロストrend』編集長 勝俣哲生氏
 会 場 : ミーティングスペース AP東京八重洲「Wルーム」

【オンデマンド視聴】

PR ケーススタディ 2023 <第 1 回>
 日 時 : 7月18日(火)～2024年4月30日(火)
 テーマ : 卓越したPRプロジェクトから成功のポイントを学ぶ
 講 師 : 合同会社ユー・エス・ジェイ ブランドPR ディレクター 柳沢洋子氏
 株式会社ブラチナム グローバルコミュニケーション局 PRプランナー
 小田切 萌氏
 味の素冷凍食品株式会社 戦略コミュニケーション部 PRグループ長
 勝村敬太氏

【オンデマンド視聴】

PR 集中テーマスタディ <第 1 回>
 日 時 : 7月25日(火)から2024年7月31日(水)
 テーマ : リスクコミュニケーション(危機管理広報)
 講 師 : 株式会社電通PRコンサルティング エグゼクティブコンサルタント 松本 太氏
 報道対策アドバイザー 窪田順生氏
 シエンプレ株式会社 WEBソリューション事業部 シニアマネージャー 桑江 令氏

7月～8月の理事会・委員会・部会スケジュール

◇定例理事会	(7月度)	日時	: 7月13日(木)	16:00～17:30
		会場	: 事務局+オンライン	
	(8月度)		休会	
◇教育委員会	(7月度)	日時	: 7月21日(金)	13:30～15:00
		会場	: ハイブリッド開催	
◇資格委員会	(7月度)	日時	: 7月27日(木)	14:00～15:30
		会場	: ハイブリッド開催	
◇国際・交流委員会	(7月度)	日時	: 7月7日(金)	16:30～17:30
		会場	: オンライン開催	
◇広報委員会	(7月度)	日時	: 7月27日(木)	16:00～17:00
		会場	: オンライン開催	
◇顕彰委員会	(7月度)	日時	: 7月20日(木)	14:00～16:00
		会場	: オンライン開催	
◇企業部会幹事会	(7月度)	日時	: 7月5日(水)	16:00～17:00
		会場	: 事務局+オンライン開催	
◇PR業部会幹事会	(7月度)	日時	: 7月18日(火)	16:00～17:00
		会場	: オンライン開催	

広報の魅力は人脈づくり



PRSJ 理事・関西支部長細見 基志
(ダイキン工業(株) コーポレートコミュニケーション室長)

2022年度の通常総会にて、理事・関西支部長を拝命致しました。副支部長の齋藤理事と二人三脚で、日本パブリックリレーションズ協会の活性化に努めてまいります。

関西支部は、長年にわたり村田貞博事務局長が、魅力ある講師陣による講演会や会員との交流会など、独自の企画で本協会の発展にご尽力いただきました。6月末をもってご退任されることとなり、これまでのご貢献に心から感謝する次第です。

7月からは、元朝日新聞のベテラン記者で、関西の経済界に精通され、ご人脈も豊富な曾根宏司氏が新事務局長・関西の顔として腕を振るわれます。ご期待ください。

私は約30年にわたり、大阪で広報の道を歩んでまいりました。1988年にダイキンが“ココム違反”という未曾有の危機に瀕したことで、私の会社人生も変わりました。「築城100日、落城3日」——築いた信用が一気に崩れ落ちました。記者との信頼関係を再構築するためのトップの指示は「3層ネットワークによるダイキンファンづくり」。トップ・幹部・記者との人脈づくりです。広報活動のゴールはファンづくりでもあります。

関西は、ざっくばらんな風土もあって、人と人の距離感が近く人脈づくりに適した土地柄です。他社広報と親しく情報交換できる伝統・場もあります。多くのベテラン記者・諸先輩・広報仲間に助けられて今があります。培った人脈は私の貴重な財産です。

関西支部長として、この頂いた“恩を送る”ことで、少しでもお世話になった関西のお役に立てればと思っています。ドン底から無手勝流でやってきた泥臭い経験が、少しでも会員の皆さまの参考になれば、これ以上嬉しいことはありません。

関西におけるPRSJの存在価値は、歴代広報が充実しているトップ企業ではなく、広報経験・ノウハウが伝承・蓄積されていない企業広報・個人会員（ひとり広報）へのサービスにあるのではないかと感じています。

東京の企業部会をはじめとした各委員会・部会の活動を手本に、関西支部も、幹事会を活性化し、会員の声・ニーズを汲み上げ、PRSJの会員になって良かったと感じてもらえるような活動にしていく所存です。

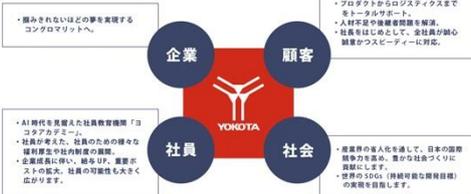
まずは、関西支部の活動に、東京の会員の皆さまが参加いただける環境を整えてまいります。Webでの参加はもちろん、2025年の大阪関西万博に向けた企画など、企業部会長の岩切副理事長のお知恵・お力添えも頂きながら、関西の魅力・良さを感じて頂ける活動の一つずつ実現していければと考えております。

最後に、本協会とのご縁を繋いで頂いた上岡前副理事長に、心から感謝し御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

新規入会の会員（正会員）のみなさまの「自己紹介」ページです。今回は、7月にご入会いただきました正会員（掲載希望社）をご紹介します。

(株)ヨコタエンタープライズ

「企業」「社員」「顧客」「社会」のすべてが輝く未来を、
ヨコタエンタープライズは目指します。



ヨコタエンタープライズは「For Japan For the Dream」というビジョンをかかげ、主に製造業を中心に「建築コンサルティング事業」「製造派遣事業」「物流事業」「IT および機電エンジニアリング事業」をエコシステムで提供することで、日本企業がかかえる人材不足という課題を解決するパートナーとして、日本企業の成長と発展に貢献することを目指す会社です。今後、会員企業のみなさまとの協会活動や研修を通じて、ブランディングやPR機能を強化し、ビジョンの実現にむけてさらなる成長をしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

PRプランナー資格認定制度／検定試験

第 34 回 1 次試験の申込みは 7 月 28 日まで

— 試験期間は、8 月 12 日(土)～27 日(日) —

資格委員会

2023 年度後期（第 34 回）1 次試験のお申込締切りは 7 月 28 日（金）となっております。

第 34 回 1 次試験は CBT 方式で、試験期間は 8 月 12 日（土）～8 月 27 日（日）の 16 日間で実施します。プライム市場に上場している企業でも、社員の自己研鑽に本資格制度を採用しているケースが増えてきております。

この機会に、ぜひ受験をご検討いただければ幸いです。

- 全国に開設されたテストセンターで、PC を使って受験していただきます。
- 16 日間の試験期間で、ご都合のよい日時・会場を選択できます。
- 受験料のお支払いはクレジットカード払い、コンビニ払い、Pay-easy（ネットバンキング）からお選びください。（手数料は無料です）
- 今回は定員の制限なくお申込み可能ですが、ご希望の日時・会場が先約で埋まってしまう場合もありますので、お早めにお申込みください。

【1 次試験 お申込みから合否通知までの流れ】



【PRプランナー資格認定制度／検定制度 第 34 回 1 次試験 実施概要】

試験期間	2023 年 8 月 12 日（土）～8 月 27 日（日）
仮申込み期間	2023 年 7 月 28 日（金）23:59 まで ※PRプランナー資格制度 Web サイトでのお申込みとなります。 （本申込に必要な受験コードを取得）
本申込み期間	2023 年 8 月 4 日（金）23:59 まで ※CBTS Web サイトにユーザー登録後、同サイトでの本申込みとなります。 （受験日時・会場選択、受験料のお支払い）
合 否 発 表	2023 年 9 月 6 日（水）正午
試験出題数／試験時間	50 問／80 分
合 格 基 準	全出題数に対して正答率 70% 以上で合格
対 応 公 式 テ キ ス ト	広報・PR概説（2023 年度版）

試験スケジュール等、詳細につきましては、下記の PR プランナー資格制度 Web サイトでご確認ください。お願いします。

PRプランナー資格制度 Web サイト：<https://pr-shikaku.prsj.or.jp/>



パブリックリレーションズ実務講座 2023

「PRプランナー1次試験対策講座」を一部改訂 ～2023年版「広報・PR概説」刊行に対応しマイナーチェンジ～

教育委員会

協会では、PRプランナー1次試験の公式テキストである2023年度版「広報・PR概説」の刊行にあわせ、オンデマンド開講から3年を経た「PRプランナー1次試験対策講座」のコンテンツを一部改訂しました。

協会では、PRプランナー1次試験の公式テキストである2023年度版「広報・PR概説」の刊行にあわせ、オンデマンド開講から3年を経た「PRプランナー1次試験対策講座」の動画コンテンツを一部改訂しました。

今回の一部改訂は、「広報・PR概説」全14章のうち6章にわたっています。改訂は、①2023年度版「広報・PR概説」に施された改訂にあわせた内容の追加、②2022年版「広報・PR概説」では省かれていた内容の追加、③図表の年次更新、をポイントとして実施しています。



今回は、2022年版の掲載内容を変更する改訂ではなく、内容を補足するマイナーチェンジとして行っています。追加したコンテンツは1次試験の対象範囲に影響せず、「広報・PR概説」に掲載されている内容の解説を通じてみさまのより深い理解に役立つものです。

なお、「PRプランナー1次試験対策講座」を現在受講中のみなさまには、改訂を行った箇所と内容についてメールでご案内いたします。

PRプランナー取得の登竜門となる「PRプランナー1次試験」は、広報・PRに関する基本的な知識を50問の問題で検定する試験であり、合格のためには広報・PRにかかわる広範な知識の習得と試験分野についての系統的な理解が必要となります。

本講座では、広報・PRに豊富な実務経験を有するとともに専門的な知識を備え、自らもPRプランナー資格を取得したベテラン講師が試験分野を平易に解説、これにより受講者は合格に必要な知識を効率的に習得できます。また、「PRプランナー1次試験」の概要や試験のポイントについても理解を深めることができ、効果的に受験対策を行うことが可能となります。

本講座は「PRプランナー1次試験」の対策・準備として、また広報・PRを基礎から体系的に学びたい方に最適です。また、講座は通年受講のため、いつでも受講をお申込みいただけます。講座詳細のご案内ならびに受講申込みについては、下記の講座案内ページをご覧ください。

みなさまの受講をお待ちいたします。

<https://prs.j.or.jp/event/1st-2021late/>

(事務局・真部)

パブリックリレーションズ実務講座 2023

「PRケーススタディ〈第1回〉」をオンデマンド開講

～7月18日から来年3月まで受講可能～

教育委員会

協会では、PR関係者の間で高く評価されるプロジェクト事例をとりあげ、ケーススタディとしてその戦略やプラン、施策、成功のためのポイントを学ぶ講座「PRケーススタディ」を今年度3回にわたり開講する予定です。このたび、その第1回講座を7月18日からオンデマンド開講いたします。

ブランドの浸透、新商品の普及、そして社会的な問題への対応など、企業はさまざまな課題の解決をめざし日々の取組みを進めています。そのなかでPRにかかわる人々は、他部門と協調しながら、課題解決に向けた全社的な取組みをPR活動により支援しなければなりません。

さまざまな課題解決をめざすPRが進められるなか、その活動が予想以上の成果をもたらすことも少なくありません。いかに独創的なPR戦略とプランを立案し、関係者と協力しながら施策を効果的に遂行するのか、まさにPRの真価と担当者の実力が問われるのです。

講座で紹介するプロジェクトは、当協会が毎年開催する「PRアワードグランプリ」における顕彰事例を中心として秀逸なものを選び、実際にそのプロジェクトにかかわるメンバーにご講演いただきます。ご講演では、プロジェクトの概要をはじめ、その戦略・プラン・施策のポイント、さらに審査におけるプレゼンテーション、エントリーシートでは明かされていない隠れた苦勞、工夫などについてもお話しいたします。

卓越したPRプロジェクトから秘められていた成功のためのポイントを学ぶ本講座。企業や各種団体において、新たなPRの展開をめざす気鋭のみなさまの受講をお待ちします。

本講座の詳細及び聴講お申込みについては、下記の協会 Web サイト 講座案内ページをご覧ください。

<https://prsj.or.jp/event/casestudy2023-1/>

■ 「PRケーススタディ」〈第1回〉の概要

No	講座タイトル	講師
1	＜「PRアワードグランプリ 2022」 ブロンズ受賞＞ 「『ストレス買取センター』～あなたのストレス買い取ります～」	柳沢洋子 氏 (合同会社ユー・エス・ジェイ)
2	＜「PRアワードグランプリ 2022」 ブロンズ受賞＞ 「ナプキンがトイレで受け取れる体験を当たり前にしていく共創実験『トレルナプロジェクト』～新しい常識をつくる「トレルナ」の共創型実証実験 PR～」	小田切 萌 氏 (株式会社プラチナム)
3	「“手間抜き論争”から“フライパン”まで 味の素冷凍食品 冷凍餃子の戦略PR」 ※「冷凍餃子『#手間抜き論争』」は「PRアワードグランプリ 2020」にてシルバーを受賞	勝村敬太 氏 (味の素冷凍食品株式会社)

(事務局 真部)

パブリックリレーションズ実務講座 2023

「パブリックリレーションズ中堅実務者講座」

「『広報』の存在価値を高めるには？」

～7月21日に六本木アカデミーヒルズにて対面開講～

教育委員会

協会では、広報の現場の中心で活躍する中堅実務者のみなさまを対象とする「パブリックリレーションズ中堅実務者講座」を7月21日に「六本木アカデミーヒルズ」にて対面開講します。

多くの企業においてコミュニケーションの中心となる広報部門。記者発表、メディア取材、ニュースリリース作成などさまざまな業務で活気に満ちる毎日のなかで、現場の核となる中堅実務者は、さらに後輩の指導や他部門との調整など多忙な仕事に追われます。毎日の業務に追われ疲労を重ねるなかで、中堅実務者もいつの間にか惰性に流され、自身の役割や目標、そこに存在する意味を見失うかもしれません。

しかし中堅実務者は現場の主演。自部門や他部門の現状に通じ、交流のあるメディア関係者などとの関係を担い、さらに現場業務を計画し遂行するなど、広報現場の中心は上司ではなく中堅実務者です。

華やかな舞台における主役が、共演する他の登場人物との絶妙なコンビネーションのもとに公演を成功に導き、多くの拍手喝采を浴びる映画や演劇の世界。同様に、広報の業務の中心となる中堅実務者も、現場で生き生きと活躍して注目を集め、高い評価を得ることも可能です。その活躍を続けるために中堅実務者は、他部門、上司・部下・同僚、社外のメディア関係者など、協力すべき人々との関係を認識して自身の位置を見極め、なすべき役割を確認しながらいかに業務をリードしていくか、その気付きを得ておくことが重要です。

本講座は、一定の業務経験を有し広報の現場においてリーダーとして活躍する中堅実務者を対象とし、社内外の人々との関係性の持ち方や自身が果たすべき役割など、日々の業務を遂行するうえで要となるポイントを習得する機会を提供します。

講師には、大手デベロッパー・不動産会社である森ビル株式会社で20数年にわたり一貫して広報畑を歩まれた特任執行役員 広報室長の野村秀樹氏をお招きします。講座では野村氏に、会社における「広報」の位置付けや機能、価値、また広報の業務を戦略的に推進するポイントについて、広報パーソンとしての自身の体験を交えながらお話しいたします。

広報の現場で業務の中心として活躍するみなさまの受講をお待ちします。

本講座の詳細及び聴講お申込みについては、下記の協会 Web サイト 講座案内ページをご覧ください。

<https://prsj.or.jp/event/middle2023/>

■ 「パブリックリレーションズ中堅実務者講座」の概要

講座タイトル	講師
「『広報』の存在価値を高めるには？」 ～中堅広報実務者が持つべき視座、考え方の要諦と実務～	野村秀樹 氏 [森ビル株式会社 特任執行役員 広報室長]

(事務局 真部)

パブリックリレーションズ実務講座 2023

今年も「新任広報部長講座 2023」を対面開講 ～7月27日、「ミーティングスペースAP新橋」にて～

教育委員会

協会では、広報部門を統括する上級管理職に新たに着任されたみなさまを対象とする「新任広報部長講座 2023」を7月26日に「ミーティングスペースAP新橋」にて開講します。

社会の目が厳しさを増す今、企業の成長と発展には、社会から評価され信頼を得ることが不可避です。特に利害関係の深いステークホルダーとの良好な関係の構築と維持は持続可能な事業には欠かせません。コミュニケーションを通じたステークホルダーとの関係性のマネジメントにとどまることなく、広報部門にはレピュテーションやブランドの維持・強化、SDGs への対応などさまざまな課題が立ちまわります。部門の上級管理者は、これら課題に直面しながら進むべき方向を探り、業務遂行に向けて自部門をマネジメントするという、重責を負うことになります。

この重責を果たすために、上級管理者は時代や社会を的確に見る視点を養い、経営を俯瞰する高い知見と感性が求められます。それゆえ自身の資質と能力を磨き上げるため、不断の研鑽を重ねなければなりません。

今回、開講第7回を迎える本講座は、広報部長や広報担当役員など上級管理者の要請に応える少数限定のマネジメント研修です。講師には、大手日本企業の経営企画部長、大手一般新聞社の経済部長、法的かつ広報的な視点をあわせ持つ弁護士を迎え、広報部門の上級管理者として不可欠な考え方やコンセプト・スキルなどについて、それぞれの立場からご講演いただきます。

本講座は、受講者を着任から間もない広報部門の上級管理職に特化し開講します。対面講座の利点を生かし講師や受講者相互の意見交換も行い、それぞれが直面する数々の課題を共有し考えていただきます。また、講座終了後には受講者の皆さまの今後の交流、ネットワーク作りにも役立つよう、懇親の機会も設ける予定です。

新たに広報部門のマネジメントに携わられた広報担当役員や広報部長など、新進気鋭の上級管理者の皆さまのご参加をお待ちします。

本講座の詳細及び聴講お申込みについては、下記の協会 Web サイト 講座案内ページをご覧ください。

<https://prs.j.or.jp/event/management2023/>

■講座と講師

内容	講座タイトル	講師
企業広報	「広報部長の責任と役割(仮)」	原谷美典 氏 (株式会社コーセー 執行役員 経営企画部長)
メディア	「朝日新聞経済部からみた企業と広報部長(仮)」	西山公隆 氏 (朝日新聞東京本社 経済部長)
法曹	「危機管理・企業ガバナンスと広報部長の役割(仮)」	鈴木悠介 氏 (西村あさひ法律事務所 弁護士)

(事務局 真部)

パブリックリレーションズ実務講座 2023**「PR集中テーマスタディ(第1回)」を7月開講****～今年度内にオンデマンドで3回を予定～****教育委員会**

協会は、本年度3回にわたって、PRパーソンに関心の高いテーマをとり上げ3人の講師に解説いただくオンデマンド専門講座「PR集中テーマスタディ」の開講を予定しています。まず、「リスクコミュニケーション（危機管理広報）」をテーマとして第1回講座を開講します。

コンプライアンスやガバナンスへの関心の高まりを背景として、企業に対する社会や行政の監視はますます厳しくなりつつあります。企業不祥事の発生には社会の批判も大きく、企業がそれまでに築いたレピュテーションやブランドを喪失することも珍しくはありません。時にはその存続までが脅かされる重大危機にも発展するケースもみられます。

企業に重要なのは、まず内部統制を確立しコーポレートガバナンスを徹底しておくこと。またリスクを洗い出し万が一の事態に備える危機管理の体制を整えるなど、全社一丸となった平時からの取組みが重要です。よもやの緊急事態には、事業、レピュテーションやブランドへのダメージを極小化する取組みを進め、社会の信頼を回復する適切な対応が求められます。

危機発生時にはマスコミとの最前線に立つ広報部門は、日ごろからリスク対応の基本を学び危機に対応する備えを固めておかねばなりません。広報担当者はリスクコミュニケーションに関する知識、基本的な対応について平時から身に付けておかねばならず、不断の自己研鑽を通じて十分な備えが求められます。

本講座では、「リスクコミュニケーション」に知見の深い3人の講師をお迎えし、リスクに備える広報担当者に不可欠な知見を集中的に学ぶ研鑽機会として開講します。広報の現場で活躍し緊急対応に備えるみなさまの受講をお待ちします。

本講座の詳細及び聴講お申込みについては、下記の協会 Web サイト 講座案内ページをご覧ください。

<https://prs.j.or.jp/event/theme2023-1/>

■「PR集中テーマスタディ (第1回)」の概要

No	講座タイトル	講師
講座 1	「危機管理の基本とコミュニケーション」	株式会社電通 PR コンサルティング 松本 太 氏
講座 2	「最新の危機管理事例の分析と対応成否のポイント」	報道対応アドバイザー 窪田順生氏
講座 3	「デジタルリスクの考え方と取り組み～ネット『炎上』にいかに対処すべきか?～」	シエンプレ株式会社 桑江 令 氏

(事務局 真部)

パブリックリレーションズ実務講座 2023**パブリックリレーションズ実務を学ぶ 2 講座を対面開講****「ニュースリリース入門ワークショップ」と
「メディアリレーションズ入門ワークショップ」****教育委員会**

協会では、パブリックリレーション業務の入門者にも実務の基本となる知識、スキルを学んでいただく 2 講座「ニュースリリース入門ワークショップ」、「メディアリレーションズ入門ワークショップ」を対面開講しました。

■ニュースリリース入門ワークショップ

6月23日、東京・虎ノ門にある「ミーティングスペースAP虎ノ門」にて、ニュースリリース入門ワークショップ「実践！新任広報担当者のためのニュースリリース作成と活用」を開講しました。

講師には、西林祐美氏（株式会社共同通信 PR ワイヤー 営業部営業企画課 次長）を迎えました。西林氏は、ニュースリリースを学ぶ新任者向け講座を何度もご担当いただいたベテラン講師です。今回の講座では、ニュースリリースの役割をはじめ作成のための基本的なポイント、リリース作成の対象となるメディアの視点など、PR業務に携わる人々が備えなければならないポイントが丁寧に解説されました。その後、課題に基づくグループワークも行われ、最後にはデジタル時代に求められるリリースの活用について語られ、4時間に及ぶ対面講座は終了しました。

**■メディアリレーションズ入門ワークショップ**

7月6日には「六本木アカデミーヒルズ」を会場として、メディアリレーションズ入門ワークショップ「新任広報担当者のためのメディアリレーションズ～現場の疑問に答えるメディア対応の実践入門～」を開講しました。

当日は、協会でも数々の登壇実績のある広報研修のベテラン 田代 順氏（株式会社マテリアル マーケティング/PRトレーナー）を迎え、4時間の講座が行われました。

講座は、デジタル時代における情報流通構造の解説から始まり、新聞やテレビなどのマスメディアについて最近の具体的な組織体制や方針などを交えた、メディアの特性を学ぶ実践的な講義が行われました。さらにゲスト講師が勤務する会社の事例をもとに、PRプランを検討するワークショップも実施されています。

この3年ほどコロナ禍で見送られてきた対面形式で開講した今回の2講座。受講者からは「対面形式で積極的に参加することができました」「やはり、オフラインで会場に集まる方が集中できて良いと思いました」などの感想もよせられ、対面形式の特徴を生かした講座となりました。

今後、講座企画を検討する教育委員会では、対面方式、オンライン方式の特徴を考慮し、研修のねらい、内容にマッチした講座方式の採用を進めていきます。

(事務局 真部)

2023 年度 第 1 回 国際セミナー開催報告 ウクライナ戦争で加速するパラダイムシフト ～分断される世界に何を発信すべきか

JIB 日本国際放送 代表取締役社長／
NHK 前ヨーロッパ総局長・元報道局国際部長 高尾潤 氏

5 月 12 日(金)オンライン開催

国際・交流委員会

今年度第一回国際セミナーは、ゲストスピーカーに JIB 日本国際放送 代表取締役社長・NHK 前ヨーロッパ総局長 高尾潤 氏をお迎えしました。「ロシア屋」を自認する高尾氏ですが、ウクライナ侵攻が去年始まり大きなショックを受けたとの由、これまでのロシアとの関わりや欧米の首脳への取材の経験を踏まえながら、ジャーナリストの視点で現状を分析し、さらにメディアの課題についてお話を伺いました。

高尾氏略歴と JIB 日本国際放送について

高尾氏は 1987 年 4 月 NHK に入局、NHK の国際報道に 30 年携わり、エリツィン、プーチン、オバマ、マクロン各大統領など海外の要人取材。NHK スペシャル『揺れる大国 プーチンのロシア』(2009/4 回シリーズ)ではウクライナ戦争の可能性を予見し、高い評価を得られました。

2021 年 6 月、JIB (株) 日本国際放送 代表取締役社長に就任。同社は日本から海外への発信を強化するため 2008 年に NHK の関連会社として放送法に基づいて設立。株主は、NHK グループのほか、民放・商社・情報通信・金融といった、大変ユニークな株主で構成されています。日本国際放送は、約 160

の国と地域、計 3 億 5,560 万世帯に配信されている海外向け英語放送「NHK ワールド」の映像編集をはじめ、番組編成、国際基幹回線の管理など、多岐にわたる業務を担われています。

中でも力を入れているのが、「NHK ワールドの独自スポンサー枠」をより多くの官公庁や企業に活用し

てもらおうこと。クライアントの意向を踏まえ、海外でのブランド力を高めるための番組を制作するにあたっては NHK のドキュメンタリー番組制作のノウハウを活かし、映像は HP や YouTube などのソーシャルメディア、展示会などで二次利用することが可能だそうです。

(以降、語り手は高尾氏)

jib.tv **高尾 潤**

<略歴>

- 1987年 NHK大阪放送局 記者
- 1996年 ウラジオストク支局長
- 2007年 モスクワ支局長
- 2011年 ワシントン支局長
- 2013年 国際番組キャスター
- 2015年 報道局 国際部長
- 2017年 ヨーロッパ総局長
- 2021年 ㈱日本国際放送 CEO



jib.tv **著作・番組受賞歴**

共著『揺れる大国プーチンのロシア』(2009 NHK出版)

NHKスペシャル『言論を支配せよ～プーチン帝国とメディア～』(2008)

- ※ ヒューゴ・テレビ賞 ドキュメンタリー(社会・政治)部門金賞
- ※ アメリカ・フィルム・ビデオ祭 ドキュメンタリー部門(政治・政府・国際関係) ゴールドカメラ賞(部門1位)

NHKスペシャル『揺れる大国 プーチンのロシア』(2009/4回シリーズ)

- ※ キャラクター賞 テレビ部門 奨励賞

『離反か従属か～グルジアの苦悩～』(2009/シリーズ第3回)

- ※ ヒューゴ・テレビ賞ドキュメンタリー番組(社会・政治)部門奨励賞

プーチンが突きつけた世界の現実とは

第二次世界大戦後、最初のパラダイムシフトは冷戦の終結——1989年のベルリンの壁崩壊に続くソビエト崩壊が止めを刺しました。そのきっかけは1991年のウクライナの国民投票でした。

それに続く第二のパラダイムシフトが現在進行中ですが、そのきっかけになったのもウクライナです。プーチンの大統領復帰から2年後の2014年に起きたロシアのクリミア併合をアメリカが止められず、またヨーロッパも容認せざるを得なかったことで、アメリカ一極支配の終焉と世界の分断というパラダイムシフトが加速化しました。

さらにヨーロッパは2015年の中東からの難民の大量流入、2016年のブレグジットをきっかけにしたEU崩壊の危機で大混乱に陥ります。ポピュリズムが台頭し、アメリカでトランプ政権が誕生したことは、プーチンにとって絶好のチャンスだったわけです。2020年からの新型コロナ危機を経て、2022年にロシアはウクライナに軍事侵攻し、今に至ります。

なぜウクライナが焦点なのか

ウクライナはヨーロッパとロシアの間に位置する地政学上の要衝であり、ヨーロッパ最大の面積と5番目の人口（約4100万人）を有する大国です。かつてこの地で栄えたキエフ公国はロシアにとって起源とも言え、ウクライナは特別な意味を持ちます。

ソビエト崩壊後、冷戦時代は東側陣営だった中東欧の国々が相次いでNATOに加盟し、ロシアに脅威が迫ってきたわけです。さらにウクライナまでNATOに加わってしまったら、というロシアの危機感は想像に難くありません。

ロシアとウクライナは同じスラブ系民族で言語も近い上、主に南東部ではロシア語を母語とする人も多く、ロシアの支配下に入ることを歓迎する人たちも少なくないのが現実です。

プーチンの戦争”か “ロシアの戦争”か

国家主義者、歴史家、サバイバリスト、アウトサイダー、自由経済主義者、そしてKGBの工作員—多様な顔を持つプーチンを知ることが、ロシアを理解する上では欠かせません。

2016年、ヨーロッパでポピュリズムが台頭し、トランプの登場で欧米の亀裂が深刻になります。世界情勢が劇的に変わり、プーチンにとって欧米の亀裂につけ込むチャンスが到来したのです。

「プーチンだから起きた戦争なのか?」「ロシア国民は?」という問いに対しては、やはりプーチンが存在し、先制的な権力を握ったからこそ起きたのだと言えます。

ロシアは特別なのだという意識を国民に植え付け、我々はがんばっても民主主義陣営の一員にはなれないという疎外感— 敵を想定し、しっかりとアイデンティティを持たないと他民族国家ロシアを束ねることはできないという危機感があります。そのうえで、独自の歴史と文化を持つロシアの思想、ロシア帝国時代のアイデンティティも探りながらロシアの復活を実現する、そういう世界観を持つ指導者として23年間この国を事実上治めてきました。プーチンの思想が行き着いたところに、この戦争があると思います。

いまメディアは何を発信すべきか。

我々の仲間が連日ロシアによるウクライナ侵攻の状況を報道しているわけですが、その情報源は主にウクライナや欧米に依拠しており、ロシア側の主張は反論とし付記する形にとどまっています。

これはある意味やむを得ない。というのは、日本や欧米がウクライナ側を支援する中で連日報道するとすると、完全に不偏不党な戦争報道というのはほぼ不可能だと思えるからです。

SNS時代には、よりわかりやすさと単純さが求められています。また視聴率を上げるためには「見られるニュース」を優先してオーダーを組むことになります。大衆迎合的なニュース報道に陥りかねない、ポピュリズムが台頭しかねない土台が築かれつつあることは否定できません。

- ① ロシア+中国に対していかに戦略を立てるか
- ② “Gゼロ時代の負け組”から脱する方法は
- ③ したたかに生き延びるヒントは欧州にあり

以上の3点を、現在進行形のパラダイムシフトの中で日本が考えるべき点として挙げ、講演を結びます。

質疑応答 (要約)

Q: 日本の隣国には敵対する国、考え方が全く一致しない国もありますが、日本が孤立しないためにどの国にどのように振る舞うべきでしょうか？

A: EU は考え方の違う人たちがまず経済で統合し、それを拡大して政治的にも統合を深めていこうと話し合いを続け、解決策を模索しています。非常に粘り強く、民主主義と人権と平和のための試みを続けている点に、日本も学ぶべきだと思います。

Q: 日本国際放送の事業について、番組内で企業名が出るということでしょうか？

A: いろいろな形での提供があるのですが、たとえば企業の CSR 的な取り組みを取材して紹介番組を作る場合には、当然企業名もご紹介することになります。

Q: マクロン大統領の EU における立場について他国のリーダーたちは支持しているのでしょうか？

A: ドイツのメルケル首相が退任してからは、EU の顔となりうるリーダーとしてマクロンを挙げざるをえない現実があります。ドイツの政治家で現在は EU を束ねるフォンデアライエン委員長とともに、いかにヨーロッパをまとめ上げていけるのか、手腕が問われると思います。

国際・交流委員長：脇山亜希子 (パイオニア(株) CPRO)
司会進行 青田 浩治 (事務局長)
質疑担当 高田敏矢 (ウェーバーシャンドウィック) 文
責 市瀬朱実 (アリソン・アンド・パートナーズ(株))

6月16日 They Talk Forum 開催報告**誰も歩いたことのない道を
～Embrace yourself! 自分を抱きしめて生きるということ～****日本テレビ放送網グローバルビジネス局
スタジオセンター映画 DIV.****主任・プロデューサー 谷生俊美（たにおとしみ）氏****国際・交流委員会**

各界の女性リーダーをスピーカーとしてお招きし、女性のエンパワメントとビジビリティ向上、会員同士のネットワーク構築を目的として開催する「They Talk Forum」。今年度第1回は、日本テレビの映画プロデューサー谷生俊美様をゲストにお招きし、4年振りに対面で開催いたしました。

当日6月16日(金)は、いわゆるLGBT理解増進法が(参)本会議で可決・成立し、谷生さんが仕事で何度も関わってきた「ハリー・ポッター」のテーマパークがとしまえん跡地にオープンした日でもありました。最初にこれまでのキャリアや人生での気づきなどをざっくばらんにお話しいただき、その後はお食事を楽しみながらの歓談タイムで、谷生さんは各テーブルを回られ、参加会員と直接、意見交換してくださいました。時間の経つのが本当に速く感じられ、名残惜しみながら解散したほど盛り上がりましたが、都合によりご参加できなかった会員の皆様に、谷生さんのご講演について、以下の通りご紹介いたします。



【性別移行（トランス）前夜まで】

1973年京都生まれ、神戸育ち。幼少期から「いつか女の子になりたい」という思いはあり、小学校高学年の頃に「笑っていいとも」に出ていたMr. Lady（ニューハーフ）は綺麗だと思って見ていました。でも、その人たちのキャリアには共感できず、ロールモデルにはなりません。そこで「普通に」高校・大学に進み、東京外国語大学ではサークルや社会活動など、勉強以外にも様々なことに打ち込みました。大学3年のときには、バックパッカーとして初めて海外に行きました。ただ、せっかく自然や文化の豊かなヨーロッパを旅し、大学ではドイツ語学科なのに、ドイツでも英語で話している自分について、それでもいいのかと思うようになりました。ちょうどその頃に起きた阪神・淡路大震災や地下鉄サリン事件の報道は、まだ社会を知らなかった自分には、ただマスコミが騒いでいるだけにも見えました。このままだと薄っぺらい社会人になってしまうのでは、という危機感から、きちんと勉強しようと大学院に進学。修了後、映画を作りたいと2000年4月に日本テレビに入社しましたが、配属先は報道局でした。その後も外報部、社会部警視庁担当と、希望に反して報道記者を続けることになり、その頃には日々の仕事に必死の中、トランス願望は薄れていました。

【トランス開始ートランスジェンダー当事者として】

ここで転機が訪れます。2005年から2010年に、カイロ支局長としてエジプトに駐在しました。中東各地でキーパーソンにインタビューしたり、危険な現場取材して回ったりというのは、高校・大学のときに夢見ていた「世界を駆け回る仕事」でした。一方、戦争やテロとは常に隣合せで、「人はいつ死ぬかわからない」ということを実感しました。同時に、中東の多くの国では同性愛は犯罪罪でしたが、自分

と向き合う時間を持てたことで、トランス願望が復活したのです。支局とはいえ職員は1人きりで誰もチェックする人がいなかったため、髪を伸ばしたり化粧したりしてできる範囲でトランスを進めていて、2010年4月に帰国したときには、いわゆる「ビジュアル系」男性のような風貌になっていました。

東日本大震災が起きた2011年3月には、「アラブの春」で出張していたカイロにいました。ニュースを見て、「人はいつ死ぬかわからない」というのは日本も同じなんだと実感しました。そして、①いつ死んでも悔いのないように生きよう、②おじさんになるくらいなら死んだ方がマシと思うようになりました。「公式」な診断があれば会社にも説明はしやすいかと考えて、その年からジェンダークリニックへの通院を開始しました。ただ、報道記者はテレビに顔を出してニュースの解説をしたりしなければなりません。トランスは難しいかと考えていました。異動直前の2012年5月下旬には、「ギリシャ再選挙とユーロ圏経済の行方」という難しいテーマについて、内容はしっかり解説しましたが、周囲には「そんな見方でテレビに出るのか」と言う人がいました。ちょうど直後から異動で報道記者ではなくなることもあって、もう二度とテレビには出たくないと思いました。

異動先は編成局編成部の映画班で、「金曜ロードSHOW!」などの映画番組のプロデューサーになりました。入社当時の希望に半分近づきました。また、理解のある上司(女性)に巡り合えました。その年に「性同一性障害」との診断を受けたのですが、迷った挙句その年の秋頃上司に打ち明けたところ、「言ってくれてありがとう」という反応。その後も味方になってくれ、社内の誰にどういう順番で話していったらいいかといったアドバイスをくれました。トランスされる方には、転職してそれまでのキャリアを切り離す人も多いですが、私は今までの人生・キャリアも自分の一部と考え、念のため自分を守るべく組合加入を継続するなどした上で、在職のままトランスすることを目指しました。

2015年になり、「金曜ロードSHOW!」でのハリー・ポッター祭りなどについて解説する仕事で、3年ぶりにテレビ出演。ネットでは批判もありましたが、好意的なコメントも3割くらいありました。2017年6月には映画天国LGBT映画祭という番組を企画・出演したところ、翌年も同じ番組に出ることになりました。また、news zeroが2018年10月にリニューアルした際、放送1週目から有働アナの隣に座る「ゲストコメンテーター」として出演して欲しいと報道局から請われたことは嬉しかったです。これまでのキャリアを評価し、きちんとコメントできるという確信に基づくキャスティングをしてもらえたと感じました。「そんな見方でテレビに出るの」と言われてから6年半経ち、こうしてまたテレビに出るようになって、本当に感慨深い思いでした。



2018年12月には映画事業部に異動し、念願の映画製作に携わるようになりました。ただし45-46歳で新たなことを始めるのは、できて当然と見られることもあって、プレッシャーやストレスが半端ではありません。それでも、2012年秋のカミングアウトから11年経ち、カミングアウトしたからこそ自分を出せ、伸び伸びとやれていると思います。また、news zeroでは2019年12月から映画の紹介役「映画ソムリエール」として役割を変えた形で出演することになりました。

【私とキャリアー人生の選択】

「女性」として生きたい、とカミングアウトしたのは39歳のとき。同じ「スペック」でも39歳の独身男性は「超優良物件」と言われるのに、39歳の独身女性は「バリキャリ系の負け犬」と、男女で捉えられ方が全く違うことに気付きました。世の中の見え方が変わったのです。また、テレビでもメインは男性で女性は添え物・華やぎというイメージで番組作りがされるケースが多く、キャスターは男性で、女性はアシスタント的役割やお天気担当とかが多いですね。その点、news zeroは出演者全員がほぼ

女性だけのこともあり、画期的だと思います。男性支配的な日本の社会の硬直化を変えるには、クォータ制でも導入しないとダメだと思います。

さて、カイロ支局で得た人生の気づき（人はいつ死ぬかわからない）にはその2があって、それは「人生の喜びとはシェアすること」です。カイロでもおいしいものを食べようと、最初は1人で楽しんでいましたが、何か物足りない。そこで、友達を集めて一緒に楽しんでみたら、もっとおいしくもっと幸せでした。人生にもなんでもシェアをするパートナーがいた方が楽しいはず。そんなとき、カイロ駐在時に現地で出会い、親しくしていた女性が、アメリカから帰国しました。色々な興味関心や価値観が変わることが多くあることに気づき、この人と一緒だったら人生はもっと楽しいだろうと、自分の想いを打ち明けましたが、最初彼女は裏でパニックになったそうです。谷生俊治さんが俊美さんになっていたんだから、無理はないでしょう。しかしよく考えた上で、やはり人として好きなのだと思うのでした。2014年に結婚。公式に人生のパートナーになりました。

仕事もプライベートも充実していましたが、子どもがいるといいよね、ということになり、2016年春に妊活を開始しました。でもなかなかうまくいかず、私も以前長期間女性ホルモン摂取をしたことで自分が原因では、と自分を責めて疲れていたし、パートナーも心身ともに疲労が色濃かったため、癒しを求めて2018年春にNZ南島へのんびり旅行したところ、心身ともリフレッシュしました。その年の9月に妊娠を確認。2019年5月29日に長女が誕生しました。パートナーは41歳10か月での初産でした。

娘に何と呼ばせるかについては、パートナーは「かーちゃん」、私は「ママ」にすることになりました。生殖能力を削ぐ女性ホルモンを長期摂取したことのある私が長女を授けられたことは奇跡に近いです。そんな奇跡の子に恥ずかしくない「ママ」でありたいと思っています。

【お伝えしたいこと” Embrace yourself!”】

これまでの人生で、「へんこ」「変わったやつ」と言われたこともありました。トランス後も社内で快く思っていない人もいたと思います。でも、そんな声を乗り越えて、きちんとした人間であると認めてもらえるようになってきています。それでも私はまだ何も達成していないと思います。そこで自分だけの作品を形にしました。娘が他の子と違う形の家族であることについて悩むのではないかというのが気がかりなので、思春期になったときの長女に伝えたいことを綴った自伝的小説を、8月末に発売することになりました。表紙には「かーちゃん」が自ら作った絵本で使ったイラストが使われています。

皆さんにお伝えしたい言葉があります。それは” Embrace yourself!”。あえて訳せば「自分を抱きしめて生きる」です。トランスを始めた40歳前から私は自分を embrace できるようになってきました。これからも” Embrace yourself!”しながら進んでいこうと思います。

今歩いているのは誰も歩いたことのない道で、ロードマップはありません。人生は冒険ですし、シェアできる家族がいるから大丈夫です。



谷生さんは「せつかくの梅雨の晴れ間の金曜夜にわざわざ集まっていたいて」と何度もおっしゃっていましたが、「人はいつ死ぬかわからない」「人生の喜びとはシェアすること」” Embrace yourself!” など数々の教訓をいただき、当日は「思い出深い夜」になりました。どんなことでもよく考えて判断し、常に全力で取り組んでいる谷生さんの姿勢は、ステレオタイプのおっさん達と戦う私たちにとって、とても励みになります。

なお、「They Talk Forum」は男性も参加OKになりましたが、今回、参加された方々と話していて、「They Talk Forum」で取り扱うテーマは、女性と男性とで切り取るところが違うかもしれないことに気付きました。このため、男性参加者の感じ方はこのレポートと違っているかもしれません。今後は男性委員もレポートを書くようになると思いますので、そのとき女性参加者がどのように感じるかというのも面白く、今後の企画にも是非ご参加いただくようお願いします。

国際・交流委員長：脇山亜希子（パイオニア㈱ CPR0）

司会進行：長澤修一（住友商事㈱）

文責：渡辺裕子（農林水産省）



■ 会員限定

第28回広報活動研究会（6月5日）開催報告
「株式会社オカムラ ショールーム&ラボオフィス」見学会
企業部会

企業部会では、会員企業の広報活動（機能、組織、運営体制など）を実際のケーススタディを通して知り、広報・文化施設等によるコーポレートコミュニケーション、ブランディングを体験していただくことを目的に「広報活動研究会」を開催しています。

今回は、サステナビリティの重要性がますます高まり、働き方も仕事観も大きく変容するニューノーマル時代の価値観の中、「豊かな発想と確かな品質で、人が活きる環境づくりを通して、社会に貢献する。」をミッションに掲げておられる株式会社オカムラ（以下、オカムラ）のガーデンコートショールームと、ラボオフィス「We Labo（ウィラボ）」見学会に10社15名の方にご参加いただき、各施設を見学しました。

■ 会員限定

第43回広報ゼミ（6月9日）開催報告 企業のサステナビリティ活動とコミュニケーションについて ～SDGsの取り組みの実態と広報部門に求められる役割とは～

企業部会

企業部会ではPR担当が事例を紹介し、情報交換を行う少人数の勉強会「広報ゼミ」を年3～4回開催しています。

2023年6月9日(金)に、東京・八重洲の近畿大学東京センターにおいて、第43回広報ゼミ「企業のサステナビリティ活動とコミュニケーションについて～SDGsの取り組みの実態と広報部門に求められる役割とは～」を開催しました。

企業経営において重要度が一層増しているサステナビリティ（SDGs、ESG）を広報としてどう発信していくべきか。広報担当者としては、社内の担当部門との連携と発信方法、役割分担などの具体的な事例をぜひ知りたいところです。そのような背景もあり、2023年2月に会員企業向けに「SDGsの取り組みに関するアンケート」を実施しました。今回の広報ゼミでは、アンケート結果についてレビューを行い、アンケートから浮かび上がった課題をもとに、凸版印刷株式会社の今津秀紀氏に企業のSDGs活動の最新動向や課題、広報部門に期待する役割について話をいただきました。今回のゼミは会場とオンラインのハイブリッド方式で、総勢63名のお申込みがありました。

■ 正会員・個人会員限定

第225回定例研究会

PRパーソンのためのリテラシー
～情報氾濫を乗り越えるために～

講師:ジャーナリスト/メディアコラボ代表
古田大輔 氏

第225回定例研究会は、5月24日(水)オンラインで開催しました。講師はジャーナリスト/株式会社メディアコラボ 代表 古田大輔氏。テーマは「PRパーソンのためのリテラシー～情報氾濫を乗り越えるために～」でした。

協会掲載記事

● 7月1日（土） 『広報会議』（株式会社宣伝会議）

『広報会議』8月号における連載コラムで、協会が実施した“ひとり広報”に関する実態調査の結果について記事掲載されました。

コラムでは、“ひとり広報”のメリットや悩み、トップによる理解度、今後の仕事への見通しなどについての調査結果が示され、協会が今後も“ひとり広報”を支援する活動を検討・実施していくことを伝えています。

● 6月20日（火） 『企業と広告』（株式会社チャンネル）

『企業と広告』7月号の記事「AD・リサーチ」において、当協会が実施した「PR業実態調査」について2ページにわたって掲載されました。

記事では、調査の対象社や回答数、回答企業の規模をはじめとして、2022年度におけるPR業の推計売上高が1479億円に達し、2019年度比で114.7%になること、増加の見通し、さらに経営面での重要課題、取扱い上位の業務やニーズの増加が見込める業務などについて、調査のまとめが詳しく紹介されています。

● 6月12日（月） 『CM通信』（ユニ通信社）

『CM通信』6月12日号において、当協会が実施した「PR業実態調査」について紹介されました。記事では本調査の目的をはじめ、調査対象者数、さらに2022年度におけるPR業売上高の推計と今後の増加見通しなどが掲載されています。

[記事協力：株式会社内外切抜通信社]



事務局の青田です。

暑いですね……。でも、PRSJでは今、“暑さ”に勝る“熱さ”で会員の交流会や講座・セミナーが行われています。いやホントに。

今月のトピックスをご紹介します。

■久しぶりの夏季情報交換会。異様に（笑）盛り上がりました！

7月12日（水）、国連大学ウラのUn Caféで、4年ぶりの夏季情報交換会が開催されました。70名弱の会員のみなさまが参加され、大変に活発かつ濃密な交流会になりました！

また、これより先に開催された「ワイガヤ会」（PR業部会主催）、「企業部会総会」もリアル形式で、いずれも大変活発で笑顔があふれる会となりました。

今更ながら、会員のみなさんが入会時に記入される動機は、ほぼ100%“学びと交流”ですので、こういう交流の場をできるだけ多く作ることが大切であると、再認識しているところです。

今回参加できなかったみなさま、次回は是非お会いしましょう。

■ACCとアワード連携を推進中！

ACCが主催する「ACC TOKYO CREATIVE AWARD」が今年からPR部門を設けました。これは従来、「ブランドコミュニケーション部門」の1カテゴリーに過ぎなかったPRを上位の部門として格上げしたものです。“PRのPR”をミッションとするPRSJとしてはこれを大歓迎しており、PRアワードとACCが連携・協働することによってPR普及の大きな波を作るべく、現在、アドバタイズでの企画記事掲載など、共同プロモーションを展開しています。ちなみに、ACCのPR部門の審査委員長に日本マクドナルドの眞野広報部長（PRSJ会員）、審査委員のひとりとしてサニーサイドアップの松本取締役（PRSJ理事・広報委員長）が参画するなど、人的なクロスオーバーが起っています。

つい先日、ACCのエントリーが締め切られたところ、PR部門には150を超えるエントリーがあり、これは従来のPRカテゴリーでの数をはるかに上回ったとのこと。素晴らしい。この勢いが私たちのPRアワードにも波及することを期待したいと思います。

■「ニュースリリース入門ワークショップ」の参加者アンケートが5段階評価で4.8！！

6月23日（金）に「ニュースリリース入門ワークショップ」が対面式、演習アリの内容で実施されました。受講者アンケートで満足度を5段階で聞いたところ、ほとんど全員が最高評価の「5」と回答。「平均4.8」と極めて高い点数をいただきました。

講師の共同通信PRワイヤー・西林さんのレクチャー内容や小グループでの実践演習などが参加者のニーズにマッチしていたことが要因だと考えられますが、やはり、リアルかつ演習付きでやれたことが、オンラインの座学に慣れた身にとっては新鮮だったのだと思われます。今年度、教育委員会はアフターコロナの講座・セミナーの在り方を模索しているところですが、よいケーススタディが出来ました。

（事務局長 青田）

（事務局長 青田）

編集担当より

本誌の内容に関するご意見・希望をお寄せください。

中身の濃い会員誌に育てていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

広報委員会

Eメール mail@prsj.or.jp

※禁転載

公益社団法人日本パブリックレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木 6-2-31 六本木ヒルズノースタワー5F

関西支部 〒530-0003 大阪府大阪市北区堂島 2-1-27 桜橋千代田ビル 3F